

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 一般的に年齢に応じた発達段階というものはありますが、子どもそれぞれによって、成長の度合いは様々で異なっていることを実感しています。「〇年生なんだからできて当たり前」といった主観的な思い込みに気を付け、その子ども自身にしっかりと目を向け、理解することで、一人一人に合った適切な対応をとることができるよう日々努力していきたいと思いました。子どもの成長を見逃さないよう、しっかりと寄り添っていきたいです。
- ◆ 人間は受胎から生涯を終えるまで発達の過程があり、成長過程を理解することは今の姿を理解することにつながるということを学びました。子どもの発達段階に応じた遊びがあること、発達には個人差があることも学びました。遊びを通して、運動能力、社会性、創造性などを発達させていくことができ、遊びは総合力であることを理解できました。子どもたちの変化に気付き、寄り添った支援をしていくために、これからも発達について学習していきたいと思います。
- ◆ 子どもの発達における段階を知り、家族以外の大人がどう関わっていけばよいのかを常に考えていきたいです。子どもの成長には個人差があり、状態にあった支援をしていくことが重要です。子どもの一つ一つの行為には何らかの意味があり、その行為の意味は何なのかを考え、理解をしていくことで、保護者が安心して子どもを預けられる支援員になれるようにしていきたいです。
- ◆ 一人一人が違うように10人いれば10通りの発達があり、その子どもに合った支援を行っていくことが必要だと思います。みんなが同じではなく、子どもに対してどのような接し方がベストなのかを日々過ごしていく中で見つけ出し、より良い支援をしていくことが重要です。学習も大切ですが、それ以上に遊びで学び、集団生活で学び、人として成長させてあげることが支援員としての使命なのだと思います。
- ◆ 子どもの発達は成人するまでの単なる準備段階ではなく、その時々固有の意味と価値をもつものであり、発達には個人差があることが分かりました。それらを理解して子どもの行動を見守り、行動の背景にある原因の固有性にも配慮しながら、柔軟な支援を行うことが必要です。人間は生涯発達していくものだという心を留めて、支援員として継続的に学んでいく姿勢を維持していきたいです。また、支援員間の情報共有も大切にしていきたいです。